

随想

歳末雜感

副会長 羽柴 弘

前頁に書いた通り、佐伯史談会は前二十年の記念行事をもととして

これが人間なら、まことに二十歳の青年で、人生はこれからであるといつたところであるが、おが史談会はどうであるか。

軌道に乗った感じがしてすでに久しいから、さしずめ四十歳不惑といつた年配である。会員皆、人の希望と渾み、意見を集約して、独善を排し、民主的な運営を心掛けたい。

このころはどこに行つても、佐伯史談会のこととをきかされる。こんな人がとびつくりすることがある。「佐伯史談」を見てみるのである。

時々新聞種になるような行事もするし、挺身して地域社会に寄与奉仕する事業もやつてのける。周囲の人達は、史談会の存在、会員の研修活動、さらにその奉仕活動について、注目しているようである。

会員皆さんと励まされて、これから活動と目指したい。

はじめに、史談会は四十歳どのべた。ところが会員の年齢は六十歳以上が圧倒的に多く、四十歳以下となると数えるほどしかない。しかし、職場や家庭で仕事がいそがしく、

ゆとりがない方は会合には参加出来ないとして、時々お留守している機関誌と、見るだけといふ方が案外多い。それはそれでは結構で、時折りの会合催し物、研修旅行について一度も参加できない、それは甚だ支えなく、りっぱな会員である。

最近、次々と新しく入会する方が多く、五〇〇部を越して印刷発行している会誌が、微り少なくなりかたである。なりしろ原紙手書きで、首ながらの謄写印刷である。郵費も今が限界かようであるから、何とか制限・整理をせねばなるまい。昔沙汰もなく会費と怠りつづけている方からは、しばらく休んでもらうようにしたい。退会下さつても、会友として何かの時にはお世話をなすらうし、ご連絡もするに考えている。

今、佐伯市と南海部郡内には、次のような同好団体があり、(一)市の会長さんは佐伯史談会員であり、それぞれの会員も半ばは同様である。直川村史談会(山下貞男) 畑野浦史談会(富沢 泰) 宇目所史談会(軸サ 勇)

この外林生所には、弥生所の歴史と文化を守る会があるし、上浦所・米水津村にも同様の組織が進行中のように、その他弥生所元田のように、小地区に僅かな会員ながら、地道に会合をつづけているところもある。お互いに連絡しながらか、時には共同して地域の歴史発掘とか、文化

の研修発掘のつとめたいものである。

終年二十周年を迎える佐伯史談会は、今いくつかの課題をかかえて苦慮している。これとどのように解決するか、会員の皆さんからアドバイスをいただきたい。

- 史談会運営のより民主化・合理化
- 組織の改編(部局の構成など)
- 機関誌の活版(またはタイプ)印刷化
- 役員(会長以下)の苦がせり
- 文化財保護事業への挺身
- 月刊史談会の開催

しかし、おせつても仕方がない。中には莫大の経費を伴うものがあり、かかりきつてやつてもらえない。史談会はお年寄が多い」との批評は全くその通り。六十、七十の老人なら比較的自由に動いてもらえるから、自然そうなるのである。

そこで老人ながら若々しさが望まれる。少くとも今の年齢から二十歳と引いて、例えは七十歳の人は二十歳減じて五十歳に若かえってほしい。肉体的にはさうはいかないだろうが、……。

もう今年も余すところ僅か、この年一度は史談会にとつては、まことによい一年であった。二、三果実がないこともあったが、まず成果があった年として、会員皆さんのご協力を感謝している。